

II 発泡酒製造業

(1) 製造業者数

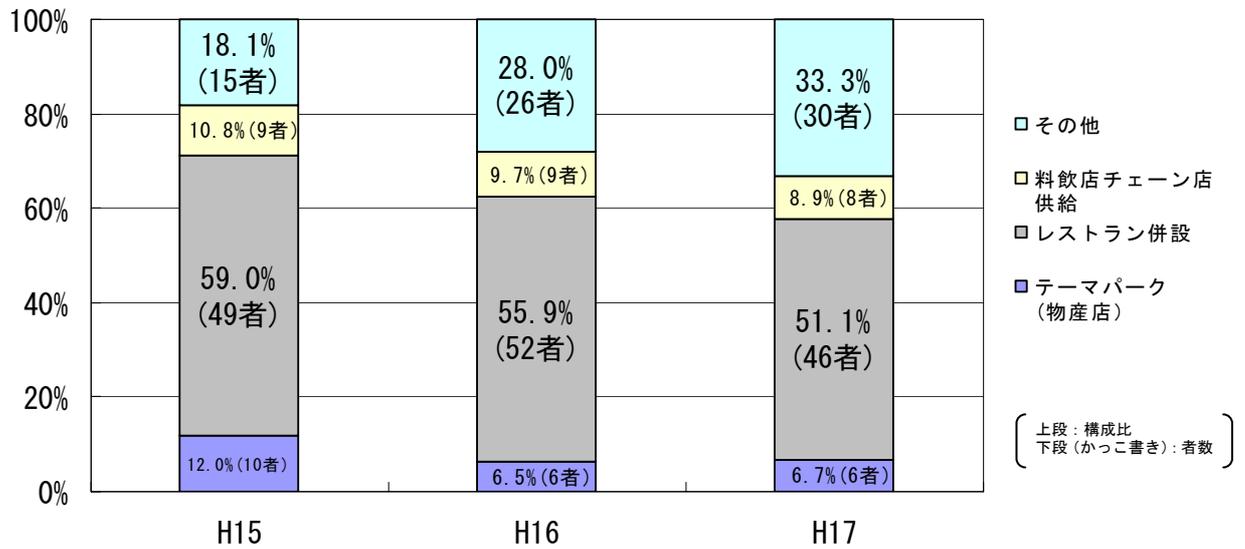
平成17事業年度の調査対象者数は103者、回答者数は90者(87.4%)であり、このうち87者(96.7%)が中小企業者(※1)である。

販売形態別ではレストラン併設形態が46者(51.1%)と最も多く(図表12)、專業割合別では專業割合(※2)10%未満の者が64者(71.1%)であり(図表13)、製成数量規模別では法定製造数量である6kllに満たない者が48者(53.3%)となっている(図表14)。

(※1)資本金3億円以下の法人並びに従業員300人以下の法人及び個人をいう。

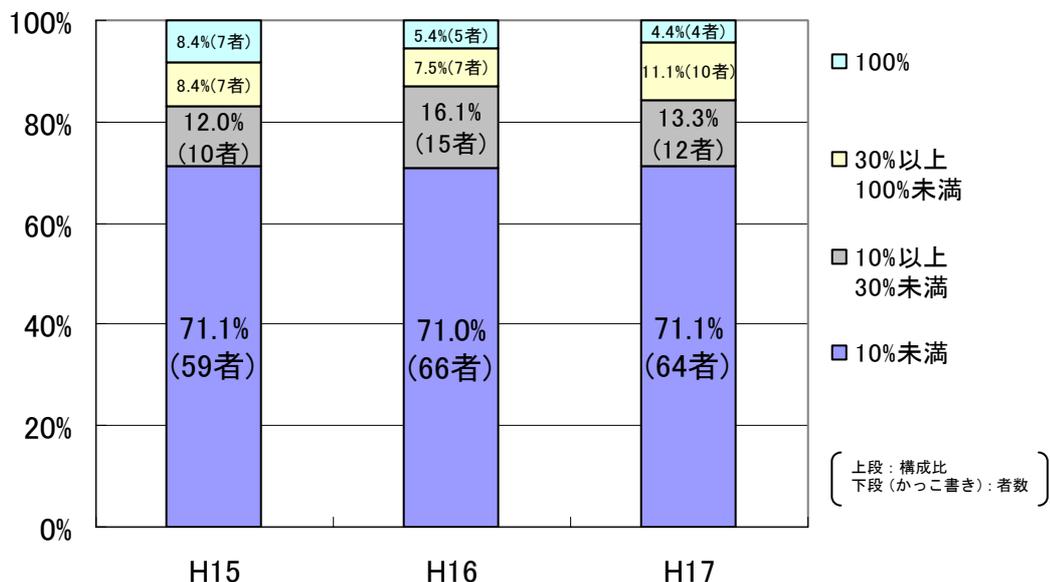
(※2)総売上高に占める発泡酒事業の売上高の割合である。

図表12 販売形態別構成比

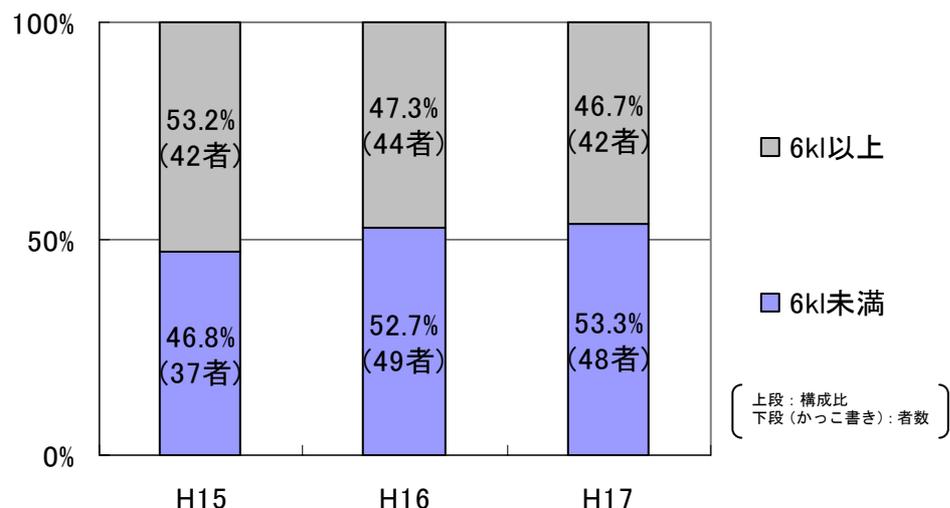


(注) その他の販売形態には、主なものとして酒類卸売業者に販売している者が含まれる。

図表13 專業割合別構成比



図表14 製成数量規模別構成比



(2) 経営状況

平成17事業年度の発泡酒事業の売上高の合計額は695百万円(1企業当たり7.7百万円)であり、平成16事業年度の669百万円(1企業当たり7.2百万円)に比べ、1企業当たりの売上高はほぼ横ばいとなっている。

営業利益(損失)の合計額は△39百万円(1企業当たり△0.4百万円)であり、平成16事業年度の△61百万円(1企業当たり△0.7百万円)に比べて縮小している。

図表15 経営状況

(単位：百万円)

区 分	売 上 高	売上原価	売上総利益	販 管 費	営業利益
H15	(7.1)	(4.1)	(3.0)	(4.1)	(△1.1)
	588	337	251	341	△ 90
H16	(7.2)	(5.0)	(2.1)	(2.7)	(△0.7)
	669	469	193	254	△ 61
H17	(7.7)	(4.1)	(2.4)	(2.5)	(△0.4)
	695	368	214	229	△ 39

(注)かっこ書は1企業平均値である。

販売形態別の1企業当たりの経営状況は、平成16事業年度と比較して、レストラン併設形態では営業損失が縮小したほか、テーマパーク形態では営業利益が減少している。

図表16 1企業当たり販売形態別経営状況

(単位:百万円)

区分	テーマパーク(物産店)					レストラン併設				
	H15	H16		H17		H15	H16		H17	
		対前年比	対前年比	対前年比	対前年比		対前年比	対前年比		
売上高	4.8	2.6	54.2%	5.5	211.5%	7.9	6.0	75.9%	5.7	95.0%
売上原価	2.1	1.0	47.6%	2.9	290.0%	4.5	3.5	77.8%	3.7	105.7%
売上総利益	2.7	1.5	55.6%	2.6	173.3%	3.4	2.5	73.5%	2.5	100.0%
販管費	1.6	1.3	81.3%	2.1	161.5%	5.5	3.0	54.5%	3.1	103.3%
営業利益	1.0	0.3	30.0%	0.0	—	△2.1	△0.5	—	△0.3	—
区分	料飲店チェーン店供給					その他				
	H15	H16		H17		H15	H16		H17	
		対前年比	対前年比	対前年比	対前年比		対前年比	対前年比		
売上高	7.2	10.3	143.1%	14.0	135.9%	6.1	9.7	159.0%	10.4	107.2%
売上原価	4.4	6.9	156.8%	10.5	152.2%	3.8	8.9	234.2%	4.9	55.1%
売上総利益	2.8	3.4	121.4%	3.6	105.9%	2.2	0.8	36.4%	2.6	325.0%
販管費	2.6	3.4	130.8%	3.2	94.1%	2.3	2.4	104.3%	4.2	175.0%
営業利益	0.2	0.0	—	0.0	—	0.0	△1.6	—	△0.9	—

(注) その他の販売形態には、主なものとして酒類卸売業者に販売している者が含まれる。

製成数量規模別の1企業当たりの経営状況は、平成16事業年度と比較して6kl未満、6kl以上ともに大きな変化はない。

図表17 1企業当たり製成数量規模別経営状況

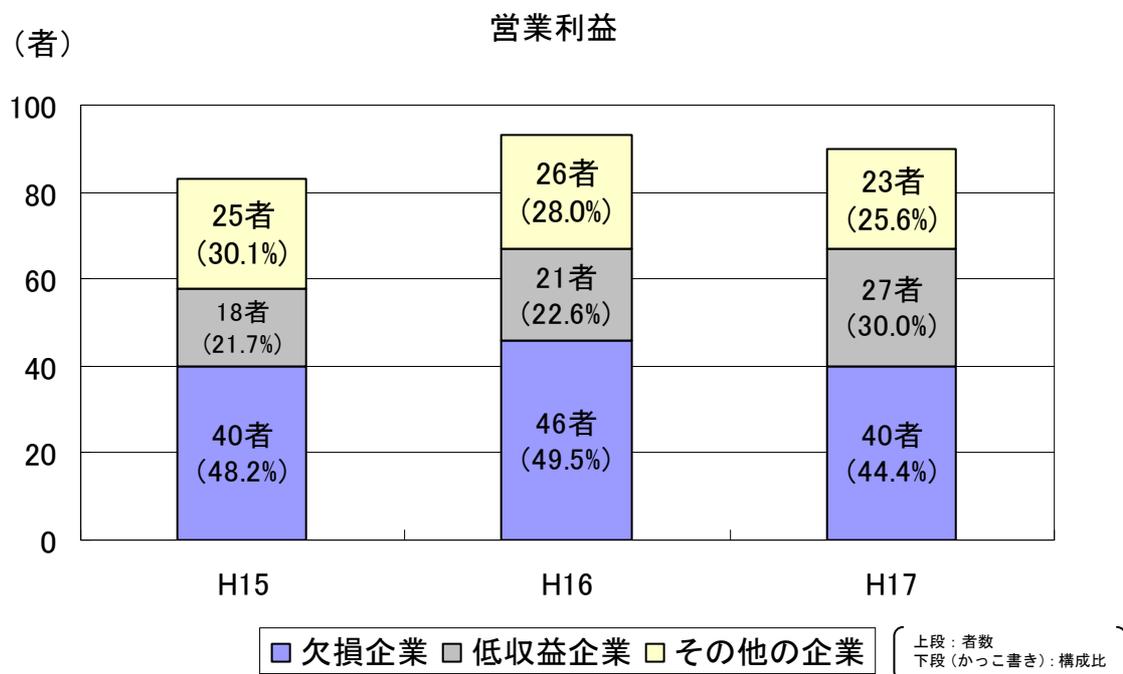
(単位:百万円)

区分	6kl未満					6kl以上				
	H15	H16		H17		H15	H16		H17	
		対前年比	対前年比	対前年比	対前年比		対前年比	対前年比		
売上高	2.9	2.5	86.2%	2.7	108.0%	11.3	13.0	115.0%	13.8	106.2%
売上原価	1.3	1.6	123.1%	1.4	87.5%	7.0	9.9	141.4%	8.2	82.8%
売上総利益	1.6	1.0	62.5%	1.6	160.0%	4.5	3.3	73.3%	3.9	118.2%
販管費	1.8	1.2	66.7%	1.7	141.7%	6.6	5.2	78.8%	5.7	109.6%
営業利益	△0.2	△0.2	—	△0.1	—	△1.9	△1.5	—	△0.8	—

発泡酒事業(営業利益ベース)の利益規模別では、欠損企業割合は平成16事業年度よりも減少したが、低収益企業割合(※3)は増加している(図表18)。

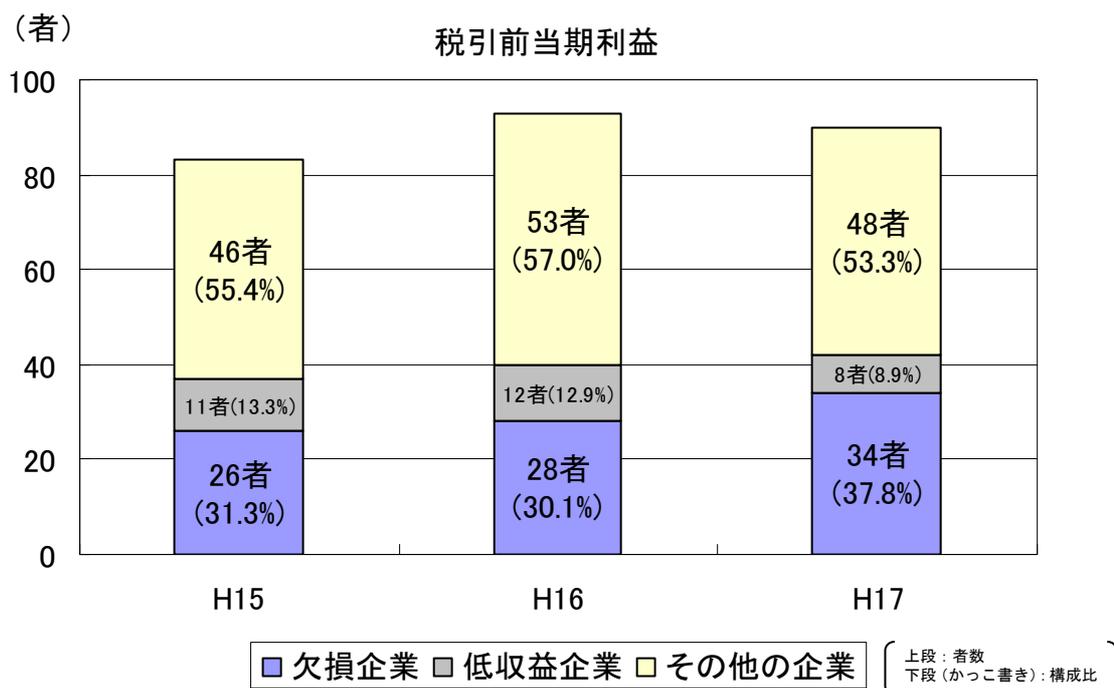
(※3)低収益企業とは、利益額が0円から50万円未満の企業をいう。

図表18 発泡酒事業の営業利益等の状況



発泡酒事業を含めた企業全体の税引前利益からみた場合の欠損企業割合は平成16事業年度よりも増加している(図表19)。

図表19 企業全体の税引前利益等の状況

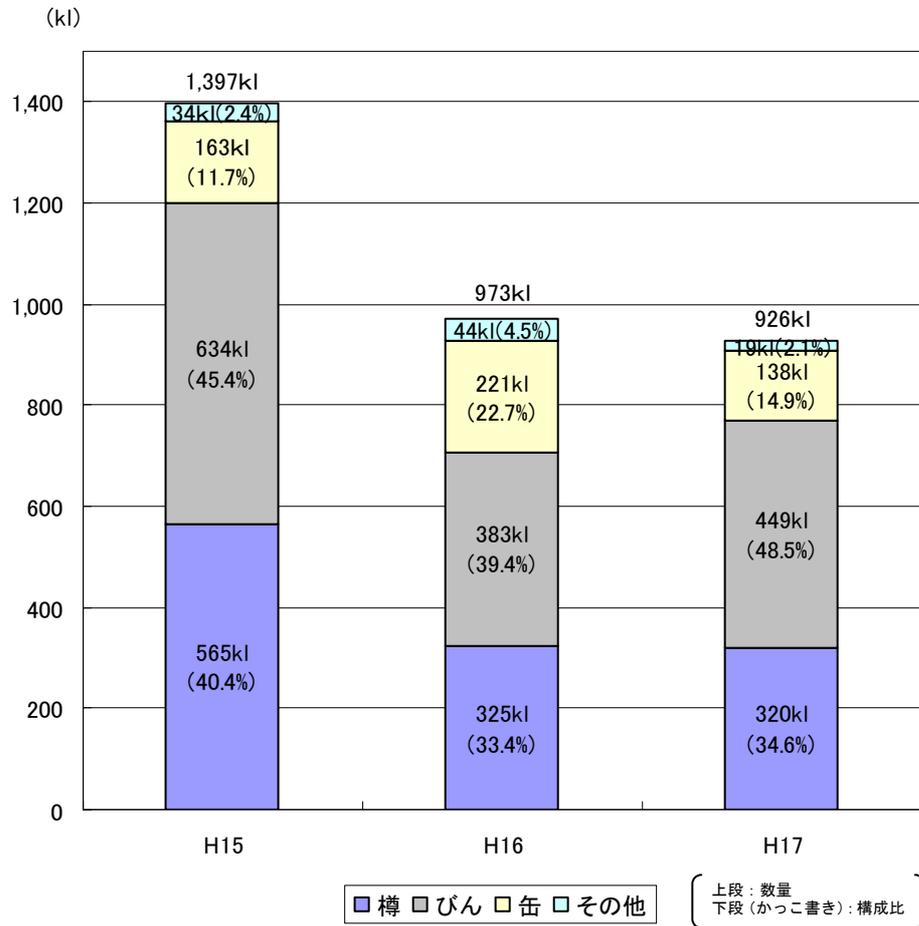


(注) その他の事業部門を含めた事業全体に係る計数である。

(3) 容器別の販売状況

樽とびんの合計で全体の80%以上を占めている。平成16事業年度と比較して、樽製品及びびん製品の割合が増加し、缶製品及びその他製品の割合が減少している(図表20)。

図表20 容器別販売数量



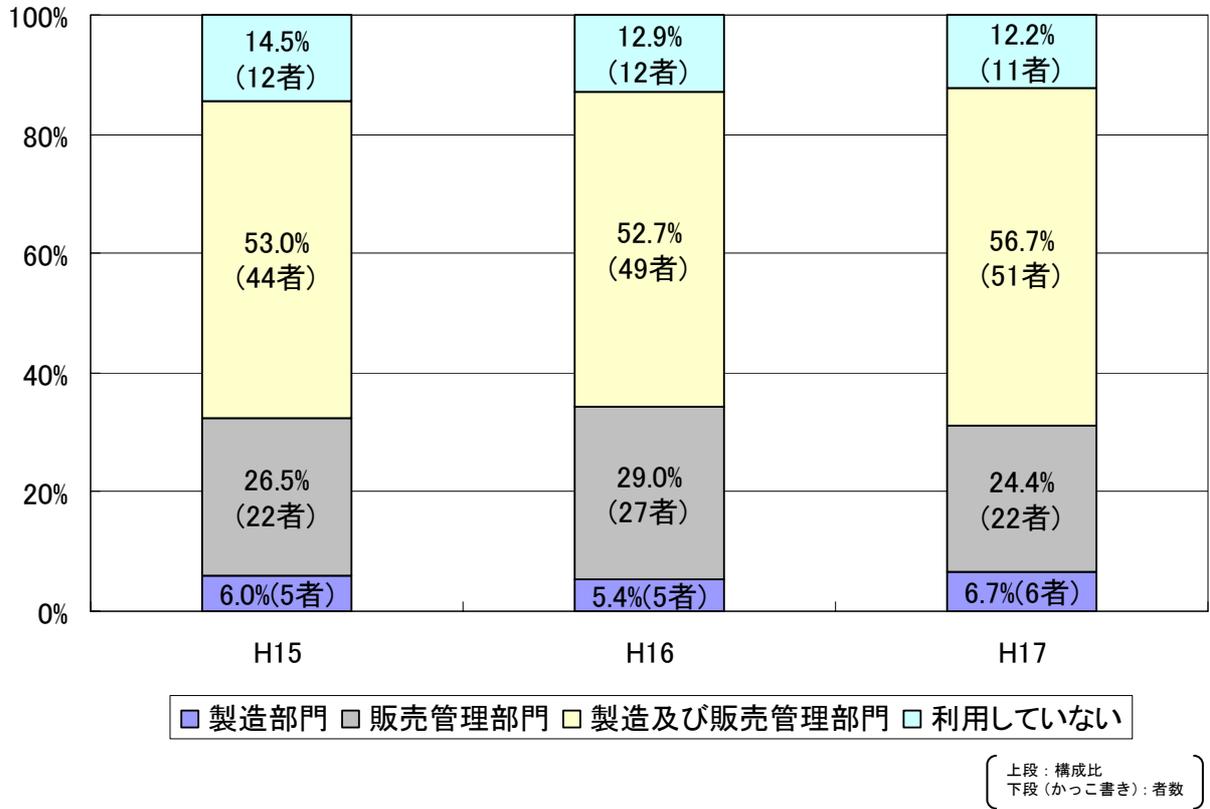
※ 平成16年度以降は、国内で製成したもののみを計上している。

(4) 情報化の状況

コンピュータの利用状況は、製造及び販売管理部門で利用している者が最も多く、56.7%である(図表21)。

ホームページは、91.1%の者が開設している(図表22)。

図表21 コンピュータの利用状況



図表22 ホームページ開設の有無

